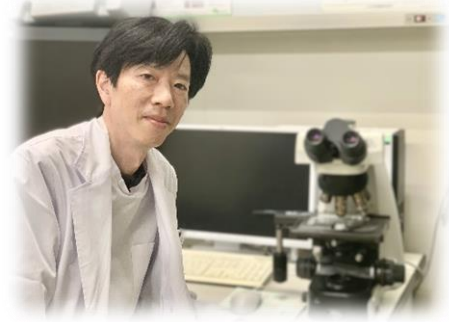


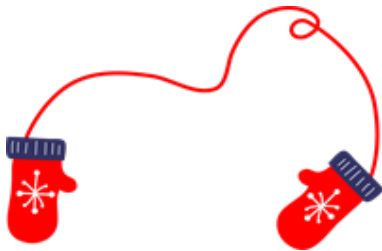
## 門司メディカルセンター 地域医療連携室だより

### 診療科紹介

# 皮膚科



皮膚科主任部長 なかしま 中島 だいき 大毅



平素より多くの患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。皮膚疾患は慢性的で治りにくい疾病が多いですが、血液検査、パッチテスト、病理組織検査等で悪化原因をしっかりと検索し、出来るだけ症状を改善しコントロールできるよう加療を行っています。

#### ○診療体制について

現在、常勤の皮膚科医師1名と看護師1名で、毎日の診療を行っております。また毎週木曜日午後には、産業医科大学の形成外科医師による診察も行っています。

#### ○診療内容について

実際診療している皮膚疾患としては、接触性皮膚炎等の湿疹・皮膚炎群、虫刺され、白癬症、ウイルス性イボ、火傷、蕁麻疹・痒疹など身近な疾患から難治なアトピー性皮膚炎、带状疱疹、薬疹/中毒疹、水泡性疾患、角化症、膠原病、皮膚腫瘍など幅広い分野での診療を行っています。診断の補助としては、直接顕微鏡検査、各種アレルギー疾患に対してパッチテストによる原因検索、ダーマスコピーを用いた皮膚腫瘍の良性悪性の判断や、直接皮膚の一部を小さく切り取り病理学的診断をする皮膚生検検査も行っています。また皮膚小腫瘍の切除・摘出術や冷凍凝固治療も外来で行っています。なお中毒疹・薬疹・汎発性の带状疱疹・天疱瘡など、点滴加療をしたほうが望ましい重症な方は、入院治療を薦めています。

形成外科では、主にあざ、ホクロ、しみ、皮膚腫瘍、陥入爪、外傷後の瘢痕などについて、専門的に診療を行っております。また形成外科の先生と協力して、難治性褥瘡・皮膚腫瘍の治療や皮膚再建治療にも積極的に取り組んでいます。近隣開業医の先生方との連携診療、必要時には近隣の大学病院への御紹介も行っております。

## ○巻き爪外来

現在、巻き爪外来を開設し巻き爪・陥入爪に対して、皮膚科・形成外科で専門的に対応しております。巻き爪は、窮屈な靴、深爪、遺伝、スポーツ、加齢、爪水虫、肥満など様々な原因で発生します。痛みがひどくなると、正しい姿勢で自然に歩くことが困難になり、肩こりや腰痛などを引き起こすこともあります。ですので、巻き爪といえども根治治療が必要です。巻き爪でお困りの患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。紹介状持参で皮膚科外来を受診頂ければ対応させていただきます。予約の必要はありません。

巻き爪の治療は、大きく分けて外科的治療と保存的治療の2つがあります。爪の変形、食い込み方、炎症の程度などを診察してから治療法を決めていきます。外科的治療は、局所麻酔下にて陥入している爪を部分的に切除し縫合する方法です。保存的治療としては、軟膏を塗布する方法、テーピング法、また最近ではワイヤー矯正法などがあります。ワイヤー矯正法とは、巻き爪の爪両端に2本のチタンワイヤーを引っ掛けてねじり上げ、自然で健康な爪へと導く治療で、矯正期間は約1ヵ月～2ヵ月で、日常生活への支障はありません。短時間に痛みもなく、巻き爪矯正ができます。なおワイヤー矯正法に関しては保険適用外ですので、自費診療となります。

## ○最後に

皮膚の張りや色つやと心の状態は深く関係していると言われ、また皮膚の疾患に取り組むにあたって、患者さんの心の持ち方次第で改善の度合いも違ってくるとも言われています。その為に患者さんとのコミュニケーションを大切にし、患者さん一人一人の立場に立ってご相談にのり、適切な診断・治療をさせていただきたいと思っています。今後ともよろしくお申し上げます。

## ♥ 「患者サポートセンター」をご活用下さい ♥

### 入退院支援・患者サポートセンター 体制

(室長) 大西 英生

(課長) 村岡美紀子 (課長補佐) 三宅 仁史

(看護師長) 古賀さとみ

(地域医療連携室事務) 櫻田誠人 上田英理子 川野美穂 小山真純 本田美穂 片山康雄

(MSW) 桂川陽子 前原知香 大石夏喜

(入退院支援看護師) 野副可奈子 岡本紀美子 村枝絹代 柴崎直子



〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号

TEL: 093-332-7616 (連携室直通)

093-331-3461 (病院代表)

FAX: 093-331-3466 (連携室専用)

PHS: 093-332-1250 (連携室担当看護師)

